

① Q この本で言う「中級」「中上級」は、それぞれ、どのくらいのレベルですか？

A 「中級」は、いわゆる中級～中級後半にかけて、JLPT で言えば N2 を目指すレベル、CEF で言えば B 1 レベルの学生です。日本語学校なら学習時間 700 ～ 900 時間程度、だいたい来日後、満 1 年くらいの学生が対象です。「中上級」は、中級後半～上級にかけて、JLPT で言えば N1 を目指すレベル、CEF で言えば B2 レベルの学生です。日本語学校なら学習時間 1000 ～ 1200 時間程度、だいたい来日後、満 1 年半前後の学生が対象です。

② Q 中級ということは、初級を終わった学生がすぐに使えますか？

A この本の中級は、やや高めで、実際のところ、中上級に近いので、たとえば、初級 6 カ月程度の課程を終えた学習者がすぐに使うのは難しすぎるでしょう。

③ Q 『みんなの日本語（初級Ⅱ）』を終えた学生がすぐにこの本を読めるのですか？

A いいえ、初級を終えたばかりで、生の文章を読んだ経験のない人がいきなり読むには難しいレベルです。その場合、中級の学習を進めながらワンクッション置き、N3 レベルくらいの易しい読み物を多めに読んで、読むことに慣れてからなら使えます。

④ Q どのレベルの学生が対象となっていますか？専門学校進学予定の学生には難しいのでは？

A 大学進学予定の人だけでなく、専門学校進学や就職を目指す人など多様な学習者が十分に読める教材です。難しすぎることはありません。課の始めに付いている学習目標とスキルは、もしそのとき分からなくても、各タスクと対応させてあり、どのスキルを使ったのか分かるようになっています。

⑤ Q 各課にどのくらいの時間をかけますか？

A 課によって違いますが、だいたい短いもので 1.5 時間から 3 時間、長いものだと 4 時間かかります。これは語彙調べ（辞書引き）を予習とし、あとのタスクは全部授業中に行う場合です。言語タスクと認知タスクを各自、家で解いてくることを宿題にし、授業中にはなぜその答えを選んだかの検討のみ行うなら各課を 1、2 時間で終えることが可能です。また、中上級のクリティカル・リーディング（CR）は、方法によってかかる時間が大きく違ってきます。全部の問いをフルにやり、答えを授業中に記述してもらったうえでディスカッションを行えば、各課の CR だけで 3、4 時間かかるでしょう。CR の問いを一つか二つピックアップし、口頭で検討するという方法なら、各課の CR を 10 ～ 20 分程度で終えることができます。いきなり口頭で検討するのが難しいようであれば、指定の問いの答えを考えて書いてくるのを宿題にしてもいいでしょう。

⑥ Q 1 冊にどのくらいの時間がかかりますか？

A 標準的な使い方だと、オリエンテーションを含め、だいたい『中級』に 36 ～ 46 時間、『中上級』に 48 ～ 60 時間程度かかります。編著者の勤務校では、1 ターム 3 カ月の読解授業がだいたい 36 コマ程度なので、他に多読用の読み物を間で挟み込みながら、2 ターム 6 カ月で 1 冊を終えます。

⑦ Q どうしてオーセンティック（生の素材）にこだわるのですか？ネイティブの書いたものは一般に難しい語彙や表現が使われていて難しいものが多いので、日本語学習者向けにリライトしたほうがいいのでは？

A 確かに手加減なしのネイティブの言い回しは学習者には負担が大きいです。けれども、いつまでも語彙・表現がコントロールされた学習者向けにリライトされたものばかり読んでいたのでは、自然な生の文章が読めるようにはなっていきません。徐々にオーセンティックに慣らしていく必要があります。この教材は、学習者が興味を持てる厳選された良質の素材のみを使っており、多少難しい言い回しがあったとしても、それは内容的必然性がある選ばれた表現です。それは今後、学習者が大学や専門学校に行ったときに向き合うことになる種類の日本語です。従って、それは学習者が徐々に生の素材に馴染んでいくのに適したテキストなのです。

⑧ Q 私の勤務校には、独立の「読解」という科目はないのですが、その場合は使えますか？

A 所属する機関に「読解」科目がなく、採用されている教材がいわゆる総合型教科書の場合、読解力を伸ばすための補助教材として、この教材のいくつかの課をピックアップして、差し込みで使っていく方法があります。JLPT の N2 対策、N1 対策といった科目を担当されている場合も、『読む力 中級』の前半を N2 の読解対策、『中級』の後半から『中上級』を N1 の読解対策にお使いいただけます。

⑨ Q この本は、日本語能力試験（JLPT）の読解対策にも使えますか？

A はい、使えます。この教材の目標は、JLPT で問われる読解力を十分にカバーしており、さらに、JLPT では求められない部分（認知処理＋CR）にも及んでいます。その部分は大学に入ってから学習の土台となります。

⑩ Q この本は、日本留学試験（EJU）の読解対策に使えますか？

A はい、使えます。EJU の読解問題はすべて、まさにこの本で言う「認知タスク」であり、この本は EJU の受験準備に完全に対応しています。EJU では、いわゆるアカデミックな文章が多く出題される、比較的短い文章が出る、すべて四択で答えるなど、形式的にはこの本のタスクと違って見えるかもしれませんが、基本の考え方は同じです。ですから、この本でしっかり勉強した学習者は、EJU の読解問題に自信をもって臨むことができるはずです。

⑪ Q 私の勤務校では、あまり予習をしない学生がいて、予習（語彙調べ）を前提とした教材は使いにくいのですが、その場合はどのような方法がありますか？

A この教材には、英・中（繁体字・簡体字）・韓の語彙リストがついています。ベトナム語版も専用サイトからダウンロードできます。なので、語彙リストをうまく使えば、語彙調べの負担はそれほど大きくないはずです。予習の徹底が難しい場合は、授業時間内で辞書引きタイムを設けて、テキストを読む前の 15 分なり 20 分なりをそれに充ててしまうというのも手です。また、状況が許すなら、辞書引きを手分けして共同で行い、テキストの行間に語釈を書き込んだものを写真に撮ってプロジェクターで映し、それを見ながら全体で読むという手もあります。

⑫ Q 学習者間のレベル差が大きいクラスで、さっと読める人と、非常に時間がかかる人がいるのですが、そのようなクラスでも使えますか？

A レベル差のないクラスは現実には存在しません。一人の学習者の中でも、4 技能のバランスが取れている人ばかりではないので、比較的レベルの揃ったクラスでも、読解力だけ見ると、かなりの開きがある場合が多々あります。読むのに時間がかかる人には、特にしっかり予習して授業に臨んでもらうのが基本です。ただし、よく読める人でも、意外に勘違いをしていたり、答えはわかっても、なぜその答えを選んだかの説明ができなかったりするものです。クラスメートに対して自分がその答えに至った根拠を説明しようとする際には、誰もが注意深くテキストを再読することになります。そして、テキストに書かれたことに基づいてそれぞれ自分の出した答えの根拠を話し合う過程を通じて、早く読める人もゆっくりの人も、ともに学び合うことができると、私たちは考えています。

⑬ Q 経験の浅い教師でも使えますか？ベテランの教師でなければ扱いが難しいのでは？

A これは、経験の多寡にかかわらず、新人でもベテランでも一定以上の質の読解授業ができるように開発された教材です。この教材の構成に従って授業を進めていけば、良質のタスクをにかけていくことができます。学習者がすぐに正解に至った場合も至らない場合も、「なぜそう思いましたか？」「それはテキストのどこに書いてありますか？」「今言ったことと、この選択肢は同じ意味ですか？」「本当ですか？もう一度よく読んでみてください」と適切な問いを繰り返すことによって、学習者にテキストの再読を促すのが基本です。私たち教師はともすると、なんでも教師が説明しよう、教え込もうとしがちですが、教えることをやめ、学習者への問いかけを増やせば、誰でも「読む力」を養う授業ができるように作られています。（参照⇒「良い質問例——学習者にテキストの再読を促すために」）

⑭ Q この本で言う「言語処理」とは？

A 言語的な手がかりだけをたどって文章を読む際に行われる処理です。たとえば、内容からではなく、「～なので」という表現を見て「これが理由だな」と判断するような処理です。接続詞や指示詞、純粋な言語的言い換えなどの処理も含まれます。

⑮ Q この本で言う「認知処理」とは？

A 比較、推論、判断などの概念操作を行なってテキストの内容を読み取る際に行われる処理です。テキストに直接的に明言されていなくても、書かれたことをもとに合理的な推論の範囲でほぼ確実に言えることを読み取るのが認知処理です。「日曜の朝だ。人通りは少ない。」というテキストは、「人通りが少ない」ことの理由が「日曜だからだ」とは直接言っていませんが、読んだ人は「日曜の朝、つまり休日だから通勤や通学の人がない、そのため人通りが少ない」というふうに、合理的な推論によって情報を結びつけて判断します。そのような処理をここでは認知処理と呼びます。

⑯ Q 「言語タスク」「認知タスク」の「タスク」とは何ですか？

A いわゆる「問題」ないし「問い」のことを、この本では「タスク」と呼んでいます。言語タスク、認知タスクでは指定の課題処理を学生に課しているので、それを「タスク（＝課題）」と呼んでいます。ちなみに、クリティカル・リーディングのほうは、より自由度の高いオープン・エンドの問いが多いため、「タスク」とは呼ばず、「クリティカル・リーディング（CR）」と呼んでいます。

⑰ Q この本で言う「言語タスク」とは？

A 「言語処理」のみを要求する問題のことを、言語タスクと読んでいます。ここでいう「言語タスク」と、従来の教材のいわゆる「ことばの問題」は違います。「ことばの問題」は文法や語彙の問題ですが、「言語タスク」はいわゆる「内容の問題」のうち、それが言語処理のみで解けるものを指します。日本語能力試験の問題はほとんどが、言語タスクです。

⑱ Q 言語タスクで、文型や語彙は扱わないということですか？

A はい。ただ、もちろんそこでひっかかって理解が止まっている学習者がいたり、質問を受けた場合には取り上げる場合もありますが、タスクとしては入れていません。読解と切り離して文法や語彙の時間に、この本で使われている文型や語彙だけを別に取り上げるという使い方はもちろん可能だと思います。

①9 Q 従来の教材にも言語処理と認知処理を扱った教材がありますね。従来のものとどこが違うのですか？

A 確かに同じような問題を含む教材はあると思います。ただ、従来のいわゆる「内容の問題」の多くは言語処理のみを求める言語タスクです。中には認知処理を問う問題もあり、非常に良質の問題もありますが、言語処理と認知処理を問う問題が混在しており、明確に意識的に区別されていません。『読む力』の新しさは、言語処理と認知処理を明確に区別し、認知処理なら、どのようなスキルを使うのかまで特定して明示した点です。ちなみに、従来のいわゆる「ことばの問題」は、テキスト中に出てきた文法や語彙・表現の知識を問う問題であって、私達が考える言語処理を問う問題ではありません。

②0 Q 言語タスクと認知タスクは重なっていて、はっきり区別できないのではないですか？

A 言語処理と認知処理はグラデーションになっていて、はっきりした境目がないのは確かです。言語処理も脳内の処理なので、広い意味では認知処理に含まれますが、ここで「言語タスク」と呼んでいるのは、言語上の処理で片付く問題、たとえば、指示詞が明確に示す内容、明瞭な論理展開マーカ―に導かれる論理関係、同義語による単純な言い換えの把握などです。そこに推論、比較、予想、判断などの言葉だけでは処理できない過程が加わり、その占める比重の大きいものを、ここでは「認知タスク」と呼んで区別しています。厳密な線引きをすることより、今、どちら寄りの処理が求められているのかを学習者に意識させることがポイントだと、私たちは考えています。

②1 Q 認知タスクは、国語の問題と似ていますね？

A はい、確かに認知タスクは国語教育で扱われる良問と重なる部分があります。国語の問題には、私たちの言う言語タスクと認知タスクの他に、作品に感情移入し、筆者の心情を推し量ることを求める問題が含まれます。私たちが「認知タスク」と呼ぶものは、テキストに書かれたことから合理的な推論の範囲で、確実に言えることだけを読み取らせる問いです。

②2 Q この本で言う「アカデミック」はどのような意味ですか？ 各課で取り上げたテキストは、専門的な内容ではありませんね？

A はい、大学の教養科目や専門科目で取り上げるような学問的なトピックはほとんど取り上げていません。ここで言う「アカデミック」なテキストとは、トピックやテーマ自体の専門性よりも、コンテンツと論理がかみ合い、思考様式を使ってアクセスできるテキストです。ある分野の専門家なりエキスパートなりが、ある見識を持ち、言語を使って人に伝わる形でそれを伝えている文章、つまり、語るに足るコンテンツの質と深みを備えた文章をアカデミックなテキストと呼んでいます。研究論文や専門書でなくても、篤農家が無農薬のりんごの作り方について語るのでも、あるいは言語学の大家が言語について一般人向けに語るのでもかまいません。こうしたアカデミック性は、大学や大学院での学習や研究だけでなく、ごく普通の生活の中でも要求されるものだとは私たちは捉えています。

②3 Q 難しいスキルの名前は、使わなくてもいいですか？

A 最初は少し難しいかもしれませんが、スキル名とその説明には翻訳もついているし、学習者もだんだん慣れて分かってくるものです。2, 3課進む頃には、「メタ・コンテンツ把握」「論点把握」といった用語が、クラスの共通語になってきます。言い換えずにそのまま使ってほしいと思っています。

②4 Q スキルが難しいのでは？ 母語でもスキルを理解できない学生がいると思うのですが・・・？

A 確かに、母語でもできない学生はいると思います。だからといって、やらなくていいかということそうではありません。その力をつけてもらいたいと思えば、やる必要があります。中級が難しい学生のためにも、今後、『読む力 初中級』の開発が必要になるでしょう。

②⑤ Q 巻末のスキル一覧は各課のはじめのスキルチェックと重なるように思いますが、どのように使うのですか？記入後に提出させたり、評価に使ったりするのですか？

A どのような分野においても、学習の効果を上げる秘訣は、明確に意識化・焦点化して学習に取り組むことです。巻末のスキル一覧は、学習のメタ認知と焦点化のためのツールです。つまり、自分がどのスキルを使ってどのような処理を行っているのか明確に意識化できるようにするための仕掛けです。各課の始めでチェックしたものを一覧表に転記して全体を横に見ることによって、自分が得意なスキルや苦手なスキルが見えてきて、何に注意して今後の学習を進めればよいかの手掛かりが得られます。スキル一覧は使われる先生が自由にお使いいただければ結構ですが、授業中に記入する時間を設け、見て回りながら個別にやりとりして学習者が気づいたことを話してもらう、といった方法が一般的です。

スキル一覧上段にある「できること1」「できること2」が Can-do-statement 型の到達目標記述になっており、また、各課に含まれる「スキル」がその課の到達目標の細目に当たるので、「何ができるか」という視点からの自己評価や教師評価に利用できます。

②⑥ Q この本で「スキル」と呼んでいるものは、「スキル（＝技能）」ではなく、課題処理ではありませんか？

A はい、その通りです。「論点を把握する」「比較・対照する」のようなものは、一般的には課題処理と言えますが、その課題処理を行う際には何らかのスキル（技能）を使っているはずで、スキルは学習・訓練によって身につけることが可能なものです。「ある課題処理を繰り返すことによって習得されると想定される、その課題処理に必要なスキル」のことを、この本では簡略化して「スキル」と呼んでいます。

②⑦ Q クリティカル・リーディングの設問文（どのような論理か／想定は妥当か等）は難しいように思いますが、学習者は理解できますか？

A 確かにいきなりだと難しく感じるかもしれません。しかし、易しく噛み砕いた例を出し、板書で図解しながら説明すれば、たいてい学習者もわかって、その枠組なり道筋なりに沿って思考を整理し、考え始めます。学習者の背景によ

っては、母語で同様の訓練を受けた経験がない場合もありますが、それでも、日本語を使って、それを初めて学んでできるようになっていくことは可能で、そこで身につけた能力は逆に母語にも転移するものと推測されます。言語によって、他者の思考をたどり、追体験することができなければ、学習・研究・ビジネスでの交渉や会議は困難です。学習者の役に立つ学習だと信じています。

②⑧ Q 2課「価値の一様性」CR2番「どのような論理を筆者は想定していると考えられますか。その想定は妥当だと思いますか。」のように、論理展開を問うタスクは、クリティカル・リーディングではなく、認知タスクなのではありませんか？

A この文章の論理は、全部ステップを踏んで書かれているか、という問いです。このようにテキストの中に説明されていない部分があり、そのギャップを複数の推論によって埋めなければならない場合は、認知タスクの範囲ではありません。また、推論で埋めて描いていく論理的ステップ（道筋）がひとつだけかどうかポイントになります。道筋がひとつで、誰が読んでも同じ推論に至るなら、認知タスクになります。書いてあることだけから判断すると、いろいろな想定や読み方ができる場合は、同様の問いでもクリティカル・リーディングになります。読むという行為は、テキストと自分との1対1の対話です。この問いも、テキストからいったん距離を置いて、自律した主体としてテキストと向き合ったとき、正解は一つではなく、多角的な読み方が可能なので、クリティカルに入れていきます。

